

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301534		
法人名	株式会社 河原木電業		
事業所名	グループホーム 智水寮		
所在地	〒031-0801 青森県八戸市江陽2丁目18番8号		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所のハード面、ソフト面に対して、年間の改善目標を作成し、改善に努めています。(設備改修や接遇研修等)ターミナルケアにおいて、本人・家族にとって満足頂ける様に、密なコミュニケーションに努め、サービス提供に活かしており、ご家族からも評価を頂いています。個別性を尊重し、ひとりひとりの機能維持・向上を目指すと共に、その方にあった環境の整備や、新たに喜びを見出せるよう柔軟に取り組みを行なっています。利用者様、ご家族、職員が、心から笑って過ごせる様に、日々努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

日々の生活では日課や、事前に食事メニューを決めず、利用者のその日の気分を大切にすることで、一人ひとりが生き生きと生活できるよう、職員が創意工夫をしながら支援している。事業所が地域や家族とのつながりが強く、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることが感じられるよう、外出や行事は協力のもと、実施されている。終末期ケアや看とりは多くの実績があり、医療との連携を図りながら、本人、家族の意向を尊重したケアの取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に唱和し、理念の共有に努め、意識的にサービス提供に盛り込んでいる。	理念は職員が作成し、年1回は言葉の意味を再認識する機会を設けている。朝礼時に唱和し、熟知に努め、日々のケアに活かし実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域還元事業や近隣保育園との交流、地域の防災訓練への参加等を通じてつながりのある暮らしの維持につとめている。	地域還元事業として月1回職員が主体となり、ごみ拾い等を継続的に実施している。地域の祭りや防災訓練に参加したり、行事に保育園や町内会の方を招待するなど、積極的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトがおり、サポーター養成講座の開催や地域の方の相談対応などを通じて、認知症の理解や支援方法を地域へと還元している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、市職員、民生委員、町内会長に会議へ参加して頂いている。会議で頂いた情報やアドバイスを活かし、サービスの質の向上に活かしている。	家族、市役所職員や町内会長の他に、地域の居宅介護支援事業所、地域包括支援センター職員も参加している。また、幅広く意見を取り入れ、行事やケアに反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じてサービスの実情等を伝達すると共に、新たな情報を得られる様、取り組んでいる。	日頃から相談しやすい関係構築に取り組んでおり、直接担当者と連絡できる体制が整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為、夜間のみ施錠を行なっている。また、身体拘束・権利擁護に関する勉強会を実施し、拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束について年に2～3回内部研修を実施している。その他、外部研修参加者が伝達講習を行い、スキルアップを図っている。また、職員間で気付いたその時に確認し合い、業務内で意識する取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・倫理に関する勉強会を実施し、理解と防止に努めている。また、外部研修で学んだことを伝達している。利用者虐待が見過ごされない様、日々の観察に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して学ぶ機会を設け、制度の必要性を理解すると共に、活用できる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ない、理解・納得が頂ける様に取り組んでいる。契約前に施設見学や説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡を主体とし、情報交換・情報共有を図り、運営に反映させている。また、苦情要望受付書を設置している。	利用者には日々様々な場面で意見を聞き、ケアに反映されるよう努めている。家族には電話や面会時に状況を報告し意見を求め、職員会議等で検討を行い、サービスの質の向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、申し送りや会議にて、意見や提案をする機会を設け、運営に反映させている。	独自の「改善・提案シート」を活用することで、職員の意見を聞き、検討を行っている。職員の声を大切にし、仕事のしやすさを求め、改善点を事業計画に反映させる取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じて、労働環境や条件の整備に努めている。また、年間の個人目標の設定や資格取得を勧め、向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を毎月開催し、ひとりひとりのスキルアップを目標に、外部研修への参加や資格取得にむけて支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会や他施設の行事などを通じ、同業者とのネットワーク作りや情報交換を行ない、サービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人本位の視点でのアセスメント、コミュニケーションを行うことで信頼関係の構築に努め、本人が意見や要望、不安に思っていることを相談しやすい関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に相談する事で、家族の不安や困っていることに耳を傾け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、他のサービスも含め、提供できるサービスを明確に説明し、本人、家族が選択し利用できるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりひとりの残存能力を把握し、暮らしの中で活かされ、互いに役割を持ち、支えあえる関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への相談・報告を密に図り、意見を反映させながら共に本人を支えていく関係を築いていける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会対応のほか、本人の希望にあわせ外出・外泊等の支援を行ない、馴染みの関係が途切れないよう、関係継続に努めている。	個々の要望に合わせ、毎週決まった曜日に自宅へ出かけたり、事業所外で友人と待ち合わせして会うなど、積極的に支援している。面会も同居家族だけではなく、親戚や孫など気楽に来て頂ける取り組みも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりひとりの能力・症状を把握し、利用者同士が支え合い、関わりあえるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの思いや意向の把握に努めている。ケアプランにおいては、本人の言葉をそのまま活かした立案を行なっている。	利用者に個別担当職員を配置し、細かく思いや意向が把握出来るよう努めている。日々の日課を決めておらず、それぞれが自由にその日の気分で過ごせるよう、希望を聞き取り可能なものは実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報やサマリーを基に、情報収集を密に行ない、これまでの暮らしや生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を見逃さず、現状を把握し、迅速にサービスに反映させられるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者と話し合い、それぞれのアイデアや意見が反映されると共に、現状に即した介護計画を作成している。また、介護計画が本人にとって身近なものになる様、本人の言葉を活かす等、工夫している。	利用者の個別担当職員と管理者と一緒に検討し、介護計画を作成している。作成時は家族にも相談し、それぞれの意見を反映させている。モニタリングは文章だけではなく、数字で評価し、情報共有しやすいよう工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で、実践・結果から得られた気づきや新たなアイデアを個別に記録し、情報の共有とサービス・介護計画への反映に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスや考えに捉われない、本人・家族のニーズに応じて柔軟な提案・支援が行なえる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとりが必要としていることを見極め、必要に応じて地域資源を活用し、暮らしを楽しむ事ができる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受ける為、本人、家族と意見を交換し、要望に沿った対応ができるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医の受診を継続している。身体状況に応じて家族と相談し、往診可能な医療機関へつないでおり、本人・家族が安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が配置されており、日常の気付きや変化を報告し、適切に受診・看護を受けられるように連携し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人が安心して治療を受けられるように支援している。また、医療機関と情報共有や意見交換をし、早期退院にむけた対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にむけて、本人・家族・医師と話し合い、事業所でできることを十分に説明し、方針を定めて支援に取り組んでいる。	利用者のほとんどが事業所内での看取りを希望され、状況に応じ、家族・主治医と連携を図り取り組んでいる実績がある。職員も外部研修へ参加し、スキルアップを図るとともに、医療との連携も構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じたマニュアルを作成している。外部研修への参加や勉強会を通じて、実践力を身に付け、事故の発生や急変に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル・緊急連絡網を作成している。また、自施設訓練や地域の防災訓練に参加し避難方法を身につけている。地域へ避難協力をお願いすると共に、事業所ができることを検討し、協力体制の構築に努めている。	地震、津波、火災の他に停電や断水など細かくマニュアルが作成されている。災害時は系列会社に協力が得られる体制が整っており、地域への協力も働きかけている。非常時持ち出し物品は常に玄関に準備され、災害を意識した取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権・人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。	どのような場面においても、丁寧な言葉掛けが行われている。改善すべき点がある時は、職員が確認することでよりよい対応への取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人本位の暮らしが営める様に、選択肢のある生活を意識し、本人が希望や意見を表現し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が自分のペースで過ごせる様に、利用者優先の視点で支援している。その為、日課はあえて設けず、希望に沿った暮らしの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひとりひとりの能力に合わせて、その人らしさが表現できる様に、環境の整備や支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の品目を増やすことで、ひとりひとりの好みを反映できる工夫をしている。食事の準備や片付けは、利用者と協力して行っている。	事前にメニューを決めず、その時に利用者が食べたいものを提供している。利用者の得意なことが活かされるよう、準備、調理、片付けを見守りのもと行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの状態・能力に合わせて、食事形態を工夫している。また、食事摂取量の把握に努め、不足な状況や、体調に合わせて、補食や内容の変更を柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの能力に合わせた口腔ケアを支援している。必要に応じて、歯科往診を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用することで、習慣やパターンを把握して、その方にあった排泄を促し、自立に向けた支援を行なっている。	夜間でも尿器やポータブルトイレを使用しておらず、排泄チェック表や習慣を分析し、トイレでの自立した排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や乳製品の提供を行なっている。便秘の予防に向けて体操を促したり、必要に応じて腹部マッサージや下剤の調整等を個別に行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴日を設けている。また、入浴日以外の日でも希望に応じて、入浴だけでなく、シャワー浴や清拭等を柔軟に対応している。	入浴日は決められているが、入浴日以外の希望にはシャワー浴や清拭で対応している。入浴日以外の夕方には足浴を実施しており、利用者の憩いの時間になっている。	重度化していく中で、現在の浴室での入浴は、利用者の身体状況に合わず、本人、職員共に身体的苦痛や負担が大きくなっているため早期に解決されることに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりが自由に休息できるよう、ソファや小上がりへ布団やベッドを設置している。居室だけでなく、本人が安心して休息できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの薬の副作用や用法・用量がいつでも確認できるように、薬の説明に関するファイルを設置している。症状の変化など医師へ報告し、適切な服薬がされる様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの希望や趣向に合わせたレクリエーションや家事への参加を通じて、役割や喜びのある暮らしが営めるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて柔軟に対応している。ドライブや散歩への参加の他、外出行事も行なっている。個別に家族との外出・外泊等の支援も行なっている。	時間や曜日を決めず、利用者の希望時に外出できる体制が整っている。事業所外での行事は家族にも呼びかけ、協力しながら本人を支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせた対応を行っている。その方の能力に応じて、金銭の所持や管理を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通りに対応できる様に、家族や関係者の協力を得ながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を取り入れた飾りや、空調等の環境整備を行ない、居心地良く過ごせる様に工夫している。混乱を招くようなもの等に関して、利用者に配慮した対応を随時行っている。	共用空間は明るく過ごしやすい温度設定がされている。ソファや畳の小上がりもあり、その時の気分で過ごせるようになっており、掲示物は季節感が取り入れられ、利用者の目につきやすい高さや場所に掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりのほか、各所にベンチやソファを設置しており、独りになれたり、気の合う利用者同士で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く過ごせる様に、使い慣れた家具や馴染みのあるものを持ち込んで頂いている。	本人の居心地の良さを追求し、使い慣れた家具の持ち込みを支援している。居室内の配置も職員が本人の意向を尊重し、混乱を生じないように、個々の暮らしを大切にした対応をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間には手すりを設置している。また、ひとりひとりの能力に応じて、個別に手すりの設置や環境整備を行ない、自立した生活が送れる様に支援している。		